

	<h1>七松小学校</h1> <h1>学校だより</h1>	<p>令和3年度 2月号</p> <p>尼崎市立七松小学校 校長 江上佳宏</p>
----------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------------------



☆ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>

SDGsの考え方を子どもたちに！ 持続可能な社会の実現を考える

最近、テレビや新聞で取り上げられ、話題になっている「SDGs」という言葉。まわりを見ると、17色のバッジをつけている方もよく見受けられます。

七松小学校の子どもたちに「SDGs」って知っていると聞くと知っている子どもがたくさんいます。どこで習ったかと聞くと、TVを見て知っていると答えてくれました。よく聞くけれど、内容まではわからない子どもも多数いました。

子どもたちにとって最も身近な教育機関である学校が、きちんと学年に応じて「SDGs」について教えなければならないと考えます。小学校では、教科書会社にもよりますが、5年生や6年生の社会や家庭など複数の教科で扱っています。中学校・高等学校でも扱われています。教育の現場では、学習指導要領の前文と総則に「持続可能な社会の創り手となる」との文言があり、学校では、「創り手」の育成が目指されています。将来の社会を創る子どもたちに、現代社会の様々な課題と持続可能な世界を実現しようとする取り組みとしてESD教育※として位置づけられています。

2月の朝礼で「SDGs」のことを全校生に話をします。また、各学年に応じて担任からも日常の生活や学習内容と関連した話をしようと考えています。

SDGs「持続可能な開発目標」は、世界中にある環境問題・差別・貧困・人権等の17の課題を世界のみinnで2030年を期限に解決しようという目標です。この目標は、2015年の国連サミットにおいて、すべての加盟国が合意した世界共通の目標です。

子どもたちには、身近な生活が世界や地球につながっていることを考えさせたいと思います。例えば、学校でたくさんの子どもの給食を残すとどうなるか。飢餓に苦しんでいる人のことや海や陸の豊かさ等に関係させることができます。また、川に浮いているレジ袋、海に流れてどうなるの。海の豊かさやエネルギー等と関連付けることができます。

このように、身近にある課題を知ること。そして自らの問題として行動に移す。物事を地球規模で考えることが大切です。子どもたちの住む自然環境が、地球規模で美しく、すべての人々が暮らしやすいものとなるよう願います。子どもたちには、未来への道を切り開く力を育みたいと考えています。

※『Education for Sustainable Development』を略した言葉で「持続可能な開発のための教育」という意味。文部科学省

→写真：本校玄関に児童会計画委員会が、『地球をもっとよくしよう！』と書いています。

